

法人理念	<p>社会は、一人ひとりが集まることで形成される集団です。その地域社会で共に暮らし、力を育むために、私たちは「できた」「わかった」を揃やす集団教育を実施しています。そして、障害のある子どもが安心して生活できる地域社会の発展に貢献することを目指しています。私たちは、社会に適應する力や自立して生活する力を伸ばし、子どもとその家族の健康・安全・尊敬を重んじる教育を提供します。体づくり、学習、集団参加を基本としたプログラムを通じて、療育支援に取り組んでいます。また、子どもたちが適応能力を伸ばし、社会参加できるよう、幼児期から早期に療育を行います。子どもたちは、経験を重ね、考えたり工夫したり、試行錯誤を繰り返しながら多くのことを学んでいます。同時に、模倣学習や言語学習などを通して脳の活動水準を高め、より高度な人間らしい行動を習得できるようになります。しかし、発達に凹凸がある場合、理解力や経験する力、適応力を高めるスピードが遅くなり、同年代の子どもたちとの成長の差が生じることがあります。また、社会のルールにおいて、ルールを達しないことが難しかったり、不適切な行動を取ってしまうことで、集団生活の中でトラブルが生じることもあります。そのため、早期療育の段階で、集団生活に適應する力をしっかりと育てていくことが重要です。私たちは、体を動かし脳を活性化させ、療育者と一緒に努力する経験を積み重ねることで、「集団に適應する力」「学習や言語の概念」「身体づくり」の育成に力を入れて療育を行っています。</p>		
支援方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>「できた」「わかった」を積み重ねる支援 子どもたちが小さな成功体験を積み重ねることで自信を育み、成長を実感できる療育を実施します。個々の発達段階に応じたプログラムを提供し、子どもたちの「できる力」を引き出します。</li> <li>社会性と自立を育む支援 子どもたちが社会のルールや集団生活に適應できる力を養うことを目指します。体づくり、学習、言語発達、集団参加のプログラムを通じて、社会で自立して生きる力を育成します。</li> <li>安心して環境づくり すべての子どもが安心して生活できる環境を整えます。子どもやその家族に寄り添い、心身ともに健やかな成長を支える療育を提供します。</li> <li>家族と地域社会との連携 子どもたちが地域社会の中で安心して生活できるよう、家族や地域と連携した支援を行います。地域の発展に寄与する療育を通じて、子どもたちの社会参加を促進します。</li> <li>健康と尊敬を守る支援 子どもたちの健康と安全を最優先に考え、一人ひとりの尊敬を重んじた支援を行います。療育者としての専門性を高め、安心して頼れる存在を目指します。</li> </ol>		
営業時間	10 時 00 分から 18 時 00 分まで	送迎実施の有無	あり

プログラム	支援内容（5領域との関連性）		
始まりの会	<p>はじまりの会では、まず子どもたちが正しい姿勢で座っているかを確認します。正しい姿勢を意識することで、集中力が上がり、次の活動にスムーズに取り組みする準備が整います。その後、今日の日付や天気をみんなで確認し、季節感や時間の感覚を育むことを大切にします。天気の話を通して、子どもたちに興味を持たせ、会話を引き出します。出席人数を数える場面では、数や計算の概念を育むことを目的として、子どもたち自身に数える役割を与えたり、簡単な計算問題を出したりして、数の認識力や算数的思考を自然に身につけられるよう工夫します。また、その日のスケジュールを簡潔に伝え、活動の流れを子どもたちにわかりやすく説明します。スケジュールを視覚的に示すために、ホワイトボードやカードを使うことで、子どもたちが活動の見通しを持ち、安心して参加できるようにします。最後に、その日の注意点や約束を確認します。例えば、「順番を守ろう」や「みんなの話をお聞きしよう」など、基本的なルールを再確認し、子どもたちに集団生活の中で大切にしてほしいことを伝えます。このようにして、子どもたちは活動に参加するための心構えを整え、スムーズに次のプログラムへと進む準備が整います。</p> <p>◆関連領域：運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
学習	<p>学習の支援では、子どもたちが自分のペースで取り組みやすい環境を提供し、さまざまな学習活動を通して能力を引き出します。まず、宿題に関しては、子どもたちが静かな環境で集中できるように配慮し、必要な教材や道具を整えます。宿題を進める際は、スケジュールを立てて時間配分をサポートし、わからない部分にはスタッフが適切なアドバイスを提供します。課題を解決した後には、達成感を感じられるようフィードバックを行い、次の課題へのモチベーションを高めます。またプログラミングやタイピングなどの学習も行っています。</p> <p>◆関連領域：認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
『動』の活動	<p>「動」の活動は、子どもたちの身体的な成長と運動能力の向上を目指す重要な支援活動です。体を動かすことで、身体の柔軟性や筋力を鍛え、集中力や協調性を高めることができます。子どもたちが積極的に参加できるように、ゲームの要素を取り入れた運動活動を行います。たとえば、ボール遊びやドッジビー、リズムに合わせたダンスなどを通して、楽しみながら体を動かします。これらの活動は、子どもたちが自分の体をコントロールできる力を養い、チームワークや協力の精神も育むことができます。また、個別の体力や運動能力に合わせた支援を行い、無理なく参加できるようにします。体力に自信がない子どもには、少しずつ負荷を増やす方法で取り組ませ、できることを見つけて成功体験を積み重ねます。一方、体力や運動能力が高い子どもには、挑戦的な課題を提供して、さらなる成長を促します。運動後は、フィードバックを行い、達成感を感じられるようにほめ、次回へのモチベーションを高めます。特に集団で行う運動の場合は、協力し合うことを意識し、仲間との関わりを大切にします。</p> <p>◆関連領域：運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
『静』の活動	<p>「静」の活動は、子どもたちの集中力や自己表現能力、社会性の向上を目的とした活動です。静かな環境で行う作業や活動を通して、感覚や認知力を育むことを目指します。制作の活動では、子どもたちが感性を豊かにし、創造力を発揮できるように支援します。季節に関連したテーマを取り入れ、季節感を感じながら手を動かして作品を作ります。これにより、集中力や細かな作業への忍耐力を養いながら、達成感を得られるようサポートします。また、制作活動を通して、自己表現や他者との協力を学びます。ソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れた活動では、子どもたちが日常生活に必要な社会的スキルを学び、実践できるように、ロールプレイやシミュレーションを通じて、対人関係を築く方法を学びます。例えば、挨拶の仕方や感謝の気持ちを表す方法、順番を守ることの重要性を体験的に学びます。これにより、子どもたちは自分自身の社会的な立ち位置や適切な行動を理解し、実生活での適応力を高めることができます。</p> <p>また、感覚を養う活動として、ブラックボックスなどを利用して視覚や触覚を刺激するプログラムを行います。子どもたちが手を使って物を探したり、視覚的なヒントを頼りに推測を行うことで、感覚的な認知力や問題解決能力を育てます。このような活動は、注意力や柔軟な思考を促し、感覚の使い方を意識的に学べる場を提供します。ビジョントレーニングとして、間違い探しなどの視覚的な課題を取り入れます。これにより、観察力や注意深さを高め、細部に気を配る力を養います。間違い探しや視覚的なパズルを通じて、子どもたちの視覚的認知力や問題解決能力を伸ばし、集中力や持続力を向上させます。これらの「静」の活動を通して、子どもたちは自己表現の方法を学び、社会的なスキルを身につけることができます。また、感覚や認知のトレーニングを行うことで、集中力や問題解決能力を高め、日常生活に役立つスキルを育むことができます。</p> <p>◆関連領域：健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
おやつ	<p>「おやつ」の活動は、子どもたちに食事以外の場面で食への関心を高め、自分で選ぶ楽しさや責任を学ぶことを目的としています。この活動を通して、食育の要素を取り入れ、子どもたちの自立心や主体性を育むことを目指します。自分が食べたいおやつを選ぶ場面を設け、選択する楽しさと、自分で選んだものを大切にする意識を養います。また、順番に選ぶことで、集団の中でルールや他者への配慮を学べる機会を作ります。食べた後は、片付けや洗いを通じて、後片付けの重要性を学び、責任感や自己管理能力を育てます。「おやつ」の活動は、ただ食べるだけではなく、食を通して学びや気づきを得られる時間を提供する大切な活動です。</p> <p>◆関連領域：健康・生活、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
調理実習	<p>「調理実習」の活動は、子どもたちが実際に料理を作る過程を通して、自己管理能力、計画力、協調性を養うことを目的としています。この活動を通して、子どもたちは食への興味を深め、実生活で役立つスキルを身につけることができます。調理を始める前に、食材の名前や特徴、栄養について説明し、食べ物への関心を高めます。次に、調理の手順や道具の使い方を一つ一つ丁寧に教え、安全に作業できるように支援します。子どもたちには、包丁やホットプレートを使う際の注意点を事前に伝え、安全な使用方法を理解してもらいます。調理中は、子どもたちが順番に作業を担い、協力して料理を進められるように促します。役割分担を行うことで、協調性やコミュニケーション能力が育まれます。また、調理中には、食材を扱う際の衛生管理についても指導します。手洗いや調理器具の清潔を保つことの大切さを実践的に学びます。調理が終わった後は、完成した料理を囲んで、子どもたちが『美味しいね!』と笑顔で感想を言い合う時間を大切にします。さらに、後片付けを通して、料理が終わった後の片付け作業の重要性も学びます。子どもたちに食器を片付ける、調理器具を洗うなどの作業をしっかりと行うことで、自己管理能力や責任感を育むことができます。このように、調理実習の活動は、子どもたちが料理の過程を通してさまざまなスキルを身につけることができる貴重な機会となります。</p> <p>◆関連領域：健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
外出支援	<p>「外出支援」の活動は、子どもたちに社会経験を積ませるとともに、楽しみや学びの場を提供することを目的としています。公園や工場見学、科学館、博物館など、さまざまな場所への外出を通して、子どもたちは実社会と触れ合い、社会性や新しい知識を学ぶことができます。外出前には、行き先や活動内容について説明し、子どもたちが目的や期待を持って参加できるようにします。例えば、博物館では展示物を観察しながら歴史や科学について学ぶこと、公園では遊びながら身体を動かしてリフレッシュすることを伝えます。外出中は、公共の場での基本的なマナーやルールを守りながら、安全に楽しむことを心掛けます。移動中は交通ルールを守ることや、公共の場での静かに過ごすことを教え、他の人と協力して行動できるように支援します。目的地では、実際に体験しながら学べる機会を提供します。公園では、自然の中で遊ぶことや身体を動かすことで健康を促進し、工場見学や科学館、博物館では、子どもたちの好奇心を刺激し、新しい知識や技術を学べるように支援します。見学先での質問タイムや観察活動を通して、子どもたちが興味を持ったことについて話し合う時間をもち、学びを深めることができます。帰り道には、振り返りの時間を設け、外出中の体験や学びを共有します。「外出支援」の活動は、子どもたちが新しい環境で学び、楽しみながら社会性を身につける大切な機会です。</p> <p>◆関連領域：健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		

家族支援	療育で得た成功体験を共有し、家庭での実践をサポートします。また、保護者の不安に寄り添い、子どもの特長や課題を理解するための情報提供や相談対応を行います。地域資源の活用も支援し、家族全体が安心して子どもの成長を支えられる環境を目指します。	移行支援	学校や他事業所と連携し、子どもが地域社会で自立して生活できる力を育むことを目指します。支援計画の共有や情報交換を行い、一貫性のある支援を提供します。
地域支援・地域連携	地域連携では、地域のイベントへの積極的な参加や地域資源の活用を通して、子どもたちが地域社会とつながる機会を提供します。地域行事を通して社会適応力を育むとともに、地元住民との交流を促進します。また、公共施設や地域サービスを活用し、子どもや家族が支援を受けやすい環境を整備します。地域全体で子どもの成長を支える仕組みづくりに貢献します。	職員の質の向上	定期的な研修や情報共有を通して、療育プログラムの質を高め、適応力や自立を促進する支援方法を磨きます。また、子どもとその家族の健康・安全・尊敬を尊重する姿勢を職員間で共有し、信頼される支援を提供します。
主な行事等	季節の行事（初詣、節分、ひな祭り、お花見、こどもの日、プール指導、ハロウィンパーティ、イルミネーション見学、クリスマス会など） 防災訓練		